

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500360
法人名	医療法人 愛寿会
事業所名	グループホーム多喜浜
所在地	愛媛県新居浜市多喜浜2丁目4番43号
自己評価作成日	平成26年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「安心、満足度、信頼度」をモットーに一人ひとりが家庭的な環境の中で穏やかに、生活でき、利用者様の明るい笑顔や笑が絶えない毎日が送れるよう頑張っています。日々の健康管理や、一般状態の観察を丁寧に行い、近くにある協力医療機関と密に連携がとれています。職員間の連携もスムーズであり、利用者様とも良い関係が築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

七夕の行事時には、ポテトフライ、サラダ、おにぎり、玉子焼き等をバイキング形式にして食事を楽しまれた。おにぎりやコロッケは、利用者と一緒に手作りされた。そのような取り組みがきっかけとなり、時々、食材をいろいろ用意して、ご自分用のおにぎりを自分でにぎって食べるような機会を作っておられる。職員で話し合っこの1年間、「利用者の希望を聞き、外出を支援する」ことに取り組んで来られた。近所を散歩したり、スーパーに買い物に出かけた際には、時にはフードコートでお茶を楽しまれることもある。ご家族が来られると、「へ行って来たんよ」と笑顔で報告する利用者もおられるようだ。外出をおくうがる利用者には、「車椅子でも行けるよ」と誘うと出かけてみようという気持ちになるようだ。季節に応じて計画を立て、桜、菖蒲、菊等を楽しみに出かけておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム多喜浜

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)
氏名 金谷 密代

評価完了日 平成26年2月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 利用者一人ひとりが安心、安全で満足感のある生活を送れる事を理念とし、事業所で毎日、理念、運営心得を読み上げて、職員間で共有し個々の心に刻み反映するように心掛けている。	
			(外部評価) 「医療、福祉の融和をコンセプトにオープンで透明感のある安心度 満足度 信頼度の高い医療・保健・福祉を提供し、地域社会に貢献します」という法人理念を、事業所理念としても掲げておられる。管理者は、「利用者が共同生活に馴染み、楽しく安心して生活ができるよう支援したい」と取り組みをすすめておられ、職員に気付きの大切さを話しながらけん引されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開設して約2年となり、外出等も多くなった。また、地域の方の畑に柚子をちぎりに行ったり、大根を引きに行く等の関わりを持つ事ができ、校区の文化祭等の行事にも参加している。敬老の日には保育園児の訪問があり交流が続いている。2ヶ月に1回ボランティアによる音楽会も開催している。	
			(外部評価) 散歩時には、地域の方と挨拶を交わし、時には、近所の方から果物や野菜をいただくこともある。敬老の日には、地域の保育園児の訪問があり、お花のプレゼントや歌や踊りを披露してくれて、利用者を楽しませてくれている。地域の文化祭には、事業所の展示スペースを用意してくれており、利用者の作品を展示されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所としての地域貢献は難しいが、家族や面会に来た方からケアの仕方等を聞かれ、対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 運営推進会議は2カ月に1度開催し、利用者の近況報告、 健康状態などを説明しながら意見交換をしている。改善点 があれば検討し改善している	さらに、会議に地域のいろいろな立場の方に参加いただけ るよう働きかけ、地域の情報を得たり、事業所の取組みを 知ってもらえるよう、会議の工夫を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 会議は、建物内の多目的ホールで開催されており、民生委 員、自治会長、地域包括支援センターの職員、ご家族の参 加があり、事業所から利用者の状況や行事予定・実施状況 を報告されている。「火災時の避難について」DVDをみたり、 「熱中症について」「音楽療法について」等、参加者とともに 勉強されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 運営推進委員として毎回地域包括支援センターより担当者 に参加してもらい、地域包括センターの役割等を話して頂い たり、ケアの取組みなどのアドバイスを頂いている。また、介 護福祉課の方との懇談会等にも参加している。	
			(外部評価) 運営推進会議時、地域包括支援センターの職員がセンター の役割や地域の高齢者の現状について説明してくださっ た。2ヶ月ごとに介護相談員の訪問があり、利用者は、「お話 をよく聞いてくれる」と感想を話されるようだ。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修等を行ったり、日頃から身体拘束をしないケアに取 り組み、見守りをしている。	
			(外部評価) 内部研修時、年1～2回、身体拘束について勉強する機会 を設けておられ、すべての職員で勉強して身体拘束をしな いケアの実践に向け、話し合いながら取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、理解を深めている。また、日頃から虐待とみなされるような発言や行動がないよう注意を払い、防止に努めている	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会があれば参加するようにし、対象入居者様がいたら家族等と話し合いを持つようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を十分におこなっている。疑問点に関しても丁寧に説明を行い、契約を結ぶようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には意見や要望は遠慮なく伝えて欲しい旨を面会時や運営推進会議時、家族会時に話している。また、入浴介助を職員と一緒にして頂きケアの取組を理解して頂いている。	
			(外部評価) ご家族は、毎月、利用料金を支払いに来られており、その折りを捉えて、担当職員が利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いておられる。ユニットごとの便りは、利用者やご家族が見られるように居室と廊下に掲示されている。年2回の「家族会」時には、事業所での利用者の暮らしの様子を口頭で報告され、外部評価実施前には家族アンケート記入の協力を促された。運営推進会議時、昼食を共にした際には、参加したご家族から、「バランスの取れた食事ですね」「魚の骨が気になる」等の感想や意見があった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎朝のミーティング時に意見や提案を聞き、できることは反映するように努めている。また、月1回の部会においても業務内容について話あっている。	
			(外部評価)	
			朝の申し送り時に、ケアについて職員の気付いたことを話し合ったり、毎月の職員会議時には、業務内容やケアの見直しをされている。介護度が重度の利用者のケアについて話し合った際には、「夜勤時には、両ユニットで協力しましょう」と申し合わせ、職員の負担軽減にもつながっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の勤務状況を把握し、職員にとって働きやすい環境や働きやすい条件となるよう可能な限り努力している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修の案内を必ず職員に知らせ、研修に参加できる体制にしている。また、勉強会を行い一人ひとりのケアの在り方を見直している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			愛媛県地域密着型サービス協会の研修会に参加し、質の向上を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人、家族と面談し納得して入居して頂けるよう、話に耳を傾け、気づきや見守りの中から安心して頂けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安に思っていることや、困っている事等、また、要望など遠慮せず話して頂き、本人、家族が納得されるまで傾聴している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様がスムーズに入居出来るように入居前に職員が自宅訪問やデイなどの施設を訪問し、馴染みながら入居できるような支援を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事はしてもらうようにしている。洗濯物を畳んだり、野菜の下ごしらえ等も職員と雑談しながら行い、心通わせれるよう心がけている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 受診等は家族にしてもらったり、来訪時には利用者の健康状態や生活を伝えている。行事にも参加して頂き、楽しみながら利用者を支えていく関係作りをしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出行事を多くし、生活していた場所を見て回ったり、遠方の家族・友人・知人が訪問しやすい体制作りに取り組んでいる。 (外部評価) 利用者をご家族やお孫さんに年賀状を出せるよう、職員が準備したり投函したりしてサポートされている。お正月には、自宅でご家族と過ごされる方もあり、事業所に戻って来られ、「家はよかった」「息子が帰って来たんよ」等と笑顔で話されるようだ。ご家族と一緒に氏神様に初詣に行かれた方もいる。たびたび訪問して下さっていた友人が、事業所に入居することになり、現在は、お互いの居室を行き来して関係を続けておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 絶えず一人ひとりに気をつけながら、声掛けし、良い関係づくりが持てるように援助している。また、トラブルがあった時は職員が間に入り孤立しないように配慮している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には今後も相談に乗れる事を伝えている。入院や施設入所時には詳しい情報提供を行い、お見舞いや面会に行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の様子(表情・言動)を見ながら、利用者一人ひとりにたいして声掛けや関わりを持ち、本人の思っている事や意向をくみ取り、把握に努めている。	
			(外部評価) 週2回、音楽療法の時間があり、歌の歌詞からお若い頃の恋愛経験や結婚に至った経緯を話されるような方もいる。新聞広告を見ながら、「食べてみたい」と希望を言われることもある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) その人の経験や生活歴、生活環境、また、これまでのサービス利用の経過については、本人・家族との会話やサービス提供事業者からの情報提供にて把握したり、日々の会話からも把握するように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の体調、心身状態は毎朝のミーティングにて話し合い全職員が把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現実に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>利用者の状況を見極め、担当者と計画作成者が話し合いをしながら介護計画を作成を行っている。評価や立案したプランを報告し、家族様にも要望や意見を頂き、最終的な計画作成をしている。モニタリングは毎月行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者の基本情報を踏まえて、利用者やご家族から暮らしの希望を聞き、介護計画を立てておられる。長期目標は6ヶ月、短期目標を3ヶ月として、毎月モニタリングを行い、見直しにつなげておられる。ご家族には、3ヶ月毎に計画の説明を行い、意見等を聞いておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>記録は本人の言動や様子が分かるように記録するよう努力している。利用者の現状にあった計画が実施されているかを確認しながら情報を共有している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者の家庭状況の変化により、できる事は職員が対応している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>利用者の家庭状況の変化により、できる事は職員が対応している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者の家庭状況の変化により、できる事は職員が対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>運営推進会議に自治会長・民生委員の方が参加されており、地域の情報を教えてくださる。また、ボランティアによる音楽会を開催したり、近所の畑で大根引きやスタヂ摘みをさせていただいている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>運営推進会議に自治会長・民生委員の方が参加されており、地域の情報を教えてくださる。また、ボランティアによる音楽会を開催したり、近所の畑で大根引きやスタヂ摘みをさせていただいている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 家族に付き添われたり、職員が同行して、かかりつけ医に受診している。その都度日常の情報提供を行っている。定期受診以外にも連携を行い適切に医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 協力医療機関の往診が月に1回ある。個別にかかりつけ医で診てもらっている利用者も、緊急時には、協力医で診てもらうようになっている。歯科衛生士による歯科検診が週一回あり、治療が必要であれば訪問歯科を利用されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師は利用者全員の状態を把握し、職員との信頼関係を保ち、適切なアドバイスを行っている。利用者の変化については職員全員で情報を共有し、対応している。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時、家族とも相談しながら、主治医、看護師、支援相談員などと情報交換し、家族の意向を尊重しながら対応している。入院中は病室訪問し状態確認をしている。家族、医師との連絡をしっかりと行い、受け入れ体制を整えている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の重度化については本人、家族、医療機関などの人と協議・検討し、その人らしい生活が出来るように寄り添った支援を行っていきたい。	
			(外部評価) 事業所では、これまでに看取り支援の事例はないが、管理者は、利用者のご家族から希望があれば支援したいと考えておられる。利用者の好きだったことを支援しながら、「寄り添うような介護」を実践したいと話しておられた。現在、利用者は「最後までここがええ」と希望する方が多く、又、ご家族も、「ここで見てほしい」と思っている方が多いようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、マニュアルにそって対応を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指示の元に自衛消防訓練を重ねている。避難場所はホーム北側の駐車場となっており、訓練には利用者も参加されスムーズに行うことが出来た。避難後の居室確認では赤いリボンをドアに掛けるようにした。運営推進会議にて地域の方にも協力を依頼し避難場所の確認を行っている。 (外部評価) 年2回、夜・昼間の火災想定での避難訓練を実施されている。消火訓練や通報訓練、避難訓練を実施し、利用者も参加されている。消防署の方からのアドバイスもあり、利用者の避難後には居室入口に赤いリボンを付けることを決め、3月の訓練時に実施する予定となっている。職員は、「火災時の避難について」のDVDをみる等して防火を意識しており、コンセントのほこりにも気を付けておられる。	いろいろな災害を想定して訓練を繰り返し、利用者と職員の安全と安心に向けた体制を作っていかれてほしい。さらに、地域の防災訓練への参加等、地域との協力体制作りにも取り組まれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重しながら声かけをしているが馴染みの声掛けとなっている。利用者のできる事は本人にしてみもらったり、利用者に職員が色々教えてもらったり、誇りを持って生活してもらえよう心掛けている。プライバシーを損なわない言葉かけや対応にも気遣いし質の向上に努めている。 (外部評価) 利用者が教えてくださることも多く、職員は「ありがとうございます」と言葉でお礼を伝えることに心がけておられる。利用者が汚れた下着を隠そうとするような場面では、利用者の気持ち等にも配慮して、そっと除けるようにして対応されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話の中から利用者の思いや希望を聞くことにより、自己決定が出来るように心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて、ゆったり過ごして頂くように 心がけている。レクリエーション等は希望にそって行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 入浴後きちんと、お化粧をされる方々がいる。個々の好み や、状況に応じた、おしゃれ作りができるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の献立表は本部の施設からもらっているが、利用者の 希望によりメニューの変更を行っている。食事の下ごしらえ や片付けは無理のない程度に手伝ってもらっている。また、 小鉢の盛り付けも職員と一緒にしている。	
			(外部評価) 法人施設の献立をもとに、食材の買い出しをして、その日の 食事担当職員が調理されている。職員も利用者テーブル を囲み、一緒に同じものを食べておられる。調査訪問日の昼 食は、ちらし寿司で、食事中は、味付けのことや「家では型 抜きをしていた」「酢魚を上に置いていた」等、手作りしてい た頃の話が弾んでいた。七夕の行事時には、ポテトフライ、 サラダ、おにぎり、玉子焼き等をバイキング形式にして食事 を楽しまれた。おにぎりやコロッケは、利用者と一緒に手作 りされた。そのような取り組みがきっかけとなり、時々、具材を いろいろ用意して、ご自分用のおにぎりを自分でにぎって食 べるような機会を作っておられる。青魚が苦手な方でも、味 付けを甘酸っぱくすると食べられる等、個々の好み等も踏ま えて調理されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の水分量、食事量を記録し、栄養状態の観察を行って いる。食事量の少ない時は主治医に相談している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後のうがいや歯磨きの声掛け誘導をおこない、利用者の 口腔状態に応じたケアを行っている。週1回 歯科衛生士に よる口腔ケアを実施。夜は義歯の消毒を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			「生活リズムパターン」の記録で一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価)	
			個々の排泄パターンを把握して誘導や声かけを行い、トイレで排泄できるよう支援されている。支援を継続することで入居時、紙パンツを使っていた方が布パンツにパットを使用して過ごせるようになった。「安心するからポータブルを使いたい」という利用者は、夜間のみ自室にポータブルトイレを置いておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			排便チェック表で排便をチェックし、水分摂取の声掛けや散歩を促しながら、定期的な下剤の服用にて排便調節を行っている。	
			(外部評価)	
			週3回入浴できるように支援されている。浴槽の椅子の位置や脱衣場の衣類の置き場所等、利用者によってはこだわりもあり、個々にお聞きしながら支援されている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			日曜日以外は入浴を行っているが、その日の体調や希望に応じて無理強いないようにしている。また、入浴日に家族が面会に見えている時は職員と一緒に介助や見守りをお願いしている。	
			(外部評価)	
			週3回入浴できるように支援されている。浴槽の椅子の位置や脱衣場の衣類の置き場所等、利用者によってはこだわりもあり、個々にお聞きしながら支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人ひとりの体調や習慣に合わせた休息を支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬袋に名前、日付、朝、昼、夕の用法を記入し服用時は名前と顔の確認を行っている。服用後は毎回、投薬した物が確認表には「印」服薬欄には「 」を入れている。薬の目的や用法については薬局が発行している説明書で理解している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや洗濯物を畳んだり、お盆を拭いたり、テーブル拭きをして頂いている。役割を見つけることで張り合いのある生活が送れるよう支援している。おやつのコーヒー等を入れていただいている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出時間を増やし行事以外の外出を楽しんでいる。施設周辺の散歩や自宅周辺までのドライブ、スーパーへの買い物等を支援をおこなっている。また、家族との外食なども楽しまれている。 (外部評価) 職員で話し合っこの1年間、「利用者の希望を聞き、外出を支援する」ことに取り組んで来られた。近所を散歩したり、スーパーに買い物に出かけた際には、時にはフードコートでお茶を楽しまれることもある。ご家族が来られると、「へ行って来たんよ」と笑顔で報告する利用者もおられるようだ。外出をおっくうがる利用者には、「車椅子でも行けるよ」と誘うと出かけてみようという気持ちになるようだ。季節に応じて計画を立て、桜、菖蒲、菊等を楽しみに出かけておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は難しいひとが殆どで、お金を預かり職員が代わりに支払っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者からの電話の希望があれば、その都度対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 光が強すぎないように、季節に応じてすだれやカーテン等を利用している。空調調節を行い、居心地の良い空間を提供し、壁や掲示板には四季折々の季節を味わえるような工夫をしている。	
			(外部評価) 玄関には雛人形が飾られており、職員の写真と名前が貼り出されていた。来客用スリッパは、「紫外線消毒器」で消毒されている。玄関から左右にユニットがあり、一周回れるようになっており、歩行練習する方もいる。時には数人で歌いながら歩くこともある。ユニットの居間と居間との間には「多目的ホール」があり、行事時には仕切りを開放して広く使用されている。居間には、利用者の塗り絵作品や写真を飾っておられた。調査訪問時には、テーブルに新聞を広げて読む利用者がおられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有の場所にはベンチ、堀こたつが設置され、思い思いの時間が過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 娘さんが活けてくれたお花をみながら、絵を描くことを楽しまれている方がいる。ご主人の写真のそばにお花を飾っている方もおられた。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談しながら、馴染みの物、好みの物を持って来ていただいている。	
			(外部評価) 娘さんが活けてくれたお花をみながら、絵を描くことを楽しまれている方がいる。ご主人の写真のそばにお花を飾っている方もおられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、ローカ、浴室に手すりを設置している。浴槽には滑り止めを敷き、介助バーや介助チェアを設置している。トイレの表示や居室には動物や花の名前がついており、分かりやすくしている。	
			(外部評価)	